

(個人用)

行政視察等報告書（個人用）

令和 6 年 2 月 1 日

知立市議会議長 様

報 告 者	岩城道雄
日 時	2024年1月24、25日
視察（研修）場所	東京千代田区衆議院会館会議室、国会図書館
目 的	マイナンバーカードの利用促進、外国人の受け入れ・共生に係る文部科学省の取り組みについて
【概 要】マイナンバーカード普及に取り組む関係機関からカードの説明、有効な使い方、今後の可能性について丁寧な説明を受けた。マイナンバーカード制度の概要と現状、今後の使い方(本人確認ツール)、カードの安全性、カードの申請・交付状況、カード利用拡大構想、高齢者介護のオンライン化、地方公共団体の行政手続きのオンライン化、国家資格等オンライン・デジタル化についての説明及び今後の参画スケジュール、カードの「市民カード」構想、「安全・便利なオンライン取引」構想、公的個人認証サービスを民間で利用する事など幅広い今後の活用の可能性の方向性の解説を受けた。次に文部科学省の外国人受け入れ担当部署から「外国人の受け入れ・共生に係る文部科学省の取組について」の解説を受けた。共生社会の実現に向けた外国人児童生徒等教育の推進の目標を掲げての日本語教育・外国人児童生徒等への教育等の充実、外国人子弟の教育環境の整備、外国人学校における保健衛生環境整備事業、日本語指導の必要な児童生徒の学校種別在籍状況の説明では、愛知県での児童数の多さが示され、知立市での特に東小学校での各種取組が、共有されており、知立市の先進性がクローズアップされた。次に、「特別の教育課程」の編成・実施について、従来足りなかった取り組みも制度化し、より生徒一人一人に寄り添った教育が出来るように制度が改変されてきた。より適正化がはかられ、有効な教育課程に近づいたと感じた。さらに帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業、日本語教育の必要な児童生徒のうち、特別な指導を受けていない生徒が一割も存在するし、一定の教育を受けている生徒でも「特別の教育課程の指導を受けている生徒の割合は7割程度に止まる。この課題の克服の一つの要素である日本語教師の育成課題を日本語教育機関の充実と共に新たに取り組み始めた。日本語教員制度の新設である。日本語教育機関の充実と共に大いに期待される分野であ	

る。

最後に、国立国会図書館の視察である。真理が我らを自由にする。との理念が掲げられて、立法府である国会に属し、国政課題に関する調査研究、資料・情報の収集・整理・保存、情報資源の利用提供、各種機関との連携協力、多様な所蔵コレクションを誇っている。資料の更なる公開のためにオンライン化が進められている。国会図書館に来なくとも、アクセスし、所蔵資料を閲覧できる体制に向けた作業がおこなわれている。

【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

知立市で進められてきた、誰一人取り残さないみんなが文化的で幸福な生活が享受できるような街づくりの下に、取り組んできた、知立在住の外国人にきめ細かく学校で対応し、足りないところも、ボランティア個人組織で補われてきた。このような姿勢と活動の重要性、今の日本での必要性を強く意識した。今後ともこうした施策を実施出来るようにしたい。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。